

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 26日

事業所名 放課後等デイサービス ビリーブ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	2	職員の配置数は適切である	5			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5		・トイレの段差が高いためステップ(踏み台)を設置している	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		・子供たちの様子を職員間で共有し、どのようにするか話し合っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		zoom開催日時を職員間で共有し、声を掛け合いながら参加できるようにしている	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		・計画立案、修正時だけでなく、日ごろから子供や家庭についての話題を	
適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		他の職員に任せきりになっているため、活動内容の提案を行い職員の負担軽減していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	色々な活動が行えるように月ごとに変えている。	活動内容が子供たちにどのように成長・発達を促すのか意味を考えながら計画していきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		基本スケジュールを固定し、活動・学習・おやつなどメリハリを持って生活	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		個々の能力に合わせて活動内容を分けて対応している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		ケース記録へ入力し共有したり、口頭で気になったことや改善が必要と考	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		時、自分が見ていた子どもを優先に記録したり、	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		モニタリングを積極的にを行い、その結果等も職員間で共有してい	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5			公式LINEを利用し、双方が円滑にメッセージのやり取りができ、職員間でもLINEを確認することで	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1		そのような例がないので、そういった場合には情報提供していきたい。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1		長期休暇の際は地域の遊び場に外出する計画を立案し実施して	自身も今後外出の計画立案に積極的に参加していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1		その日にあったことや気になることなど保護者と共有し、話し合っ	他の職員と比較し、保護者との関わりがまだ消極的であるため、本人、保護者の困りごとなどを引き出せる関わりが必要と関わりが必要と考える。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5				
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			モニタリング以外の機会にも、LINEや電話、送迎時など必要な	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5			今年度は家族会を開催できなかったが、来年度には計画がある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			・毎日活動の様子をSNSやLINEを用いてリアルタイムでお伝えでき	
	35	個人情報に十分注意している	5			連絡帳へ入力する際に、他の利用者の名前を出	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			口頭だけではなくLINEを用いてご	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2		面親とコミュニ	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5		サイボウズですぐに確認できるようにされている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			身体拘束を行う事例はないが、やむを得ず行う場合は、十分な説明をし、計画に記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		いつでも各自確認できるようになっている。	